資料5-2

令和７年食中毒発生状況の概要について

令和８年６月 16 日
厚生労働省健康・生活衛生局食品監視安全課

1．発生状況（事件数, 患者数, 死者数）

○　令和７年に国内で発生した食中毒事件数は 1,172 件（対前年+135 件）、患者数 24,727 人（対前年+10,498 人）、死者数２人（対前年−１人）であった。

○　そのうち、患者数２人以上事例は、841 件（対前年+180 件）、患者数 24,396 人（対前年+10,542 人）であり、全体の事件数の 71.8%、全体の患者数の 98.7%を占めていた。

○　患者 500 人以上の食中毒は２件（対前年+１件）であった。

２．月別発生状況

食中毒事件の発生が最も多かった月は、２月及び３月の各 184 件（15.7%）で、次いで４月の 110 件（9.4%）、５月の 93 件（7.9%）の順であった。患者数では、２月の 8,054 人（32.6%）、３月の 3,835（15.5%）、４月の 2,386 人（9.6%）の順で多かった。

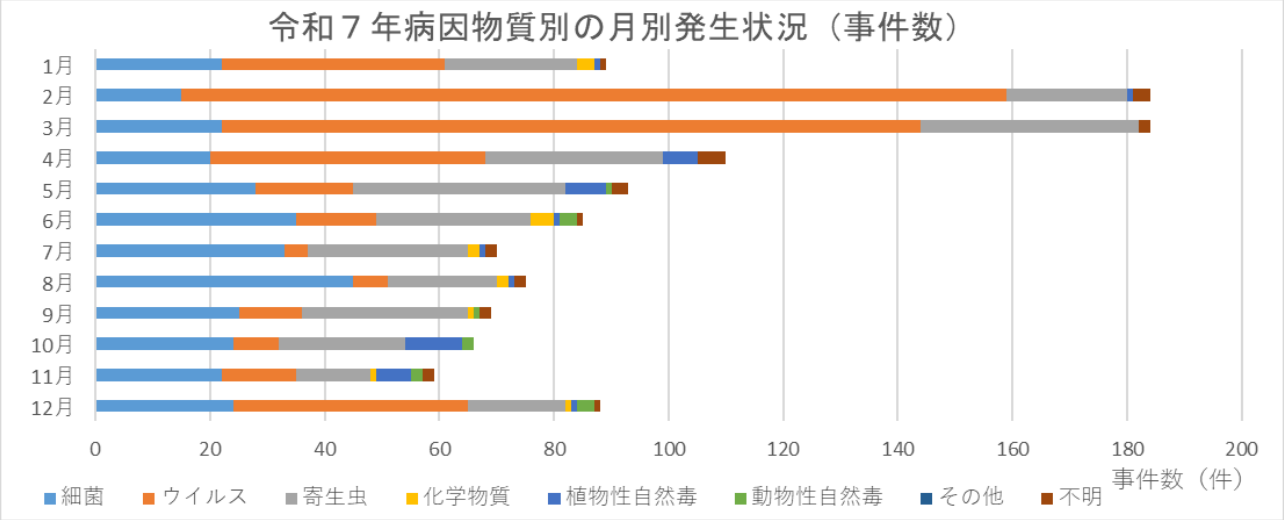


図１：令和７年月別発生状況（事件数）

表１：令和７年月別発生状況（事件数）

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
細菌	22	15	22	20	28	35	33	45	25	24	22	24
ウイルス	39	144	122	48	17	14	4	6	11	8	13	41
寄生虫	23	21	38	31	37	27	28	19	29	22	13	17
化学物質	3	0	0	0	0	4	2	2	1	0	1	1
植物性自然毒	1	1	0	6	7	1	1	1	0	10	6	1
動物性自然毒	0	0	0	0	1	3	0	0	1	2	2	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	1	3	2	5	3	1	2	2	2	0	2	1
合計	89	184	184	110	93	85	70	75	69	66	59	88

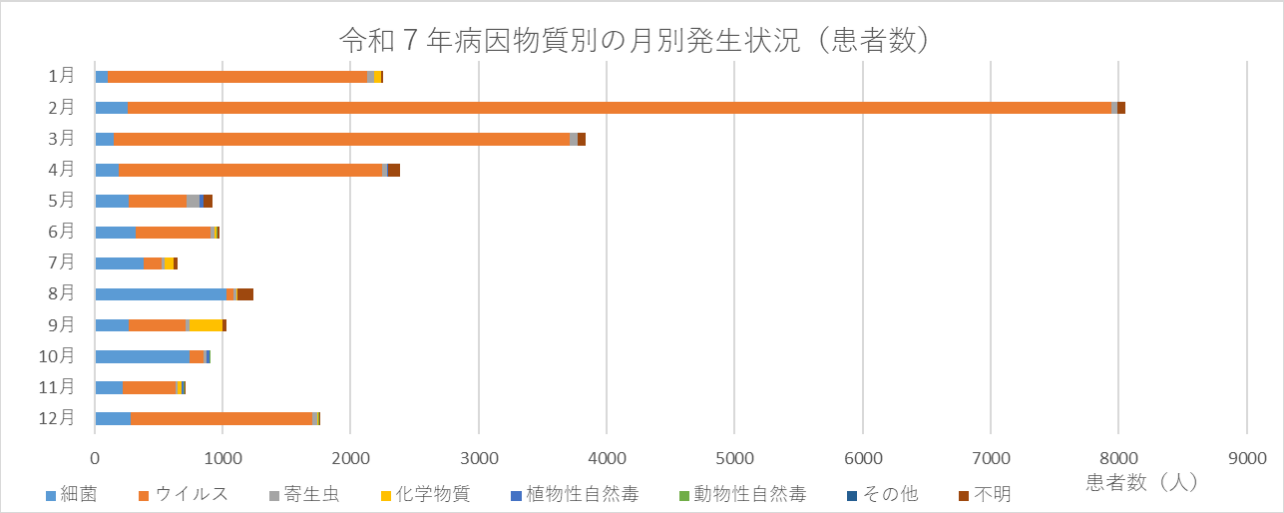


図２：令和７年月別発生状況（患者数）

表２：令和７年月別発生状況（患者数）

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
細菌	107	256	154	190	266	323	385	1031	270	742	221	281
ウイルス	2022	7688	3558	2053	451	580	136	55	440	111	410	1423
寄生虫	54	42	63	45	105	38	28	22	30	22	22	39
化学物質	56	0	0	0	0	11	68	6	260	0	28	4
植物性自然毒	1	1	0	8	27	1	2	2	0	27	19	2
動物性自然毒	0	0	0	0	3	6	0	0	1	4	4	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	16	67	60	90	69	14	27	122	30	0	10	15
合計	2256	8054	3835	2386	921	973	646	1238	1031	906	714	1767

３．病因物質別発生状況

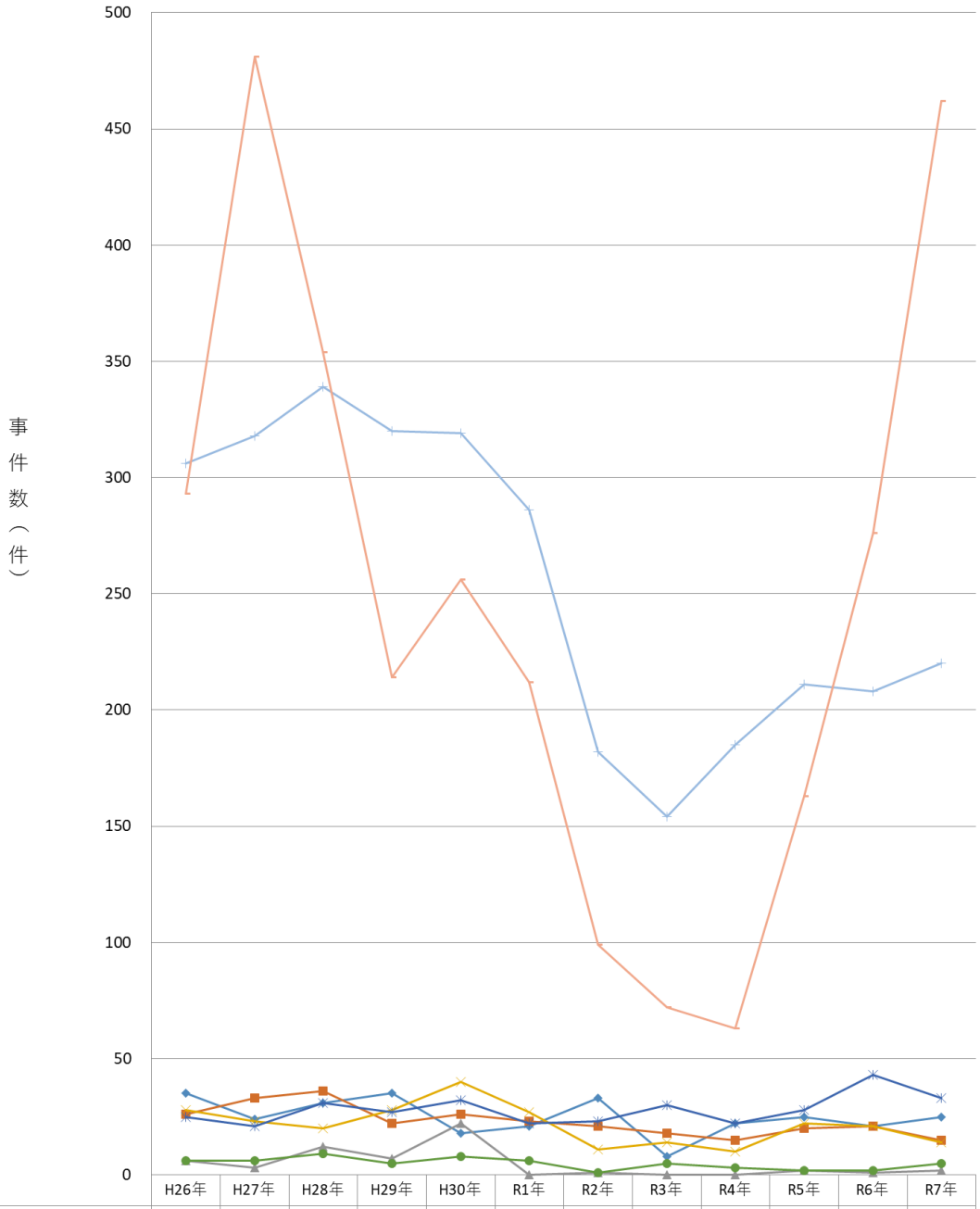
○　病因物質別の事件数を見ると、ノロウイルス（462 件、39.4％）、アニサキス（280 件、23.9％）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（220 件、18.8％）の順で多かった。また、病因物質別の患者数は、ノロウイルス（18,566 人、75.1％）、ウエルシュ菌（1,260 人、5.1％）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（1,226 人、5.0％）の順で多かった（図３，４）。

○　そのうち、患者数２人以上の事例の病因物質別の事件数を見ると、ノロウイルス（461 件、54.8％）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（195 件、23.2％）、ウエルシュ菌（33 件、3.9％）の順で多かった。また、患者数２人以上の事例の病因物質別の患者数は、ノロウイルス（18,565 人、76.1％）、ウエルシュ菌（1,260 人、5.2％）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（1,201 人、4.9％）の順で多かった。

○　腸管出血性大腸菌による食中毒は、事件数 10 件（0.9％）、患者数 362 人（1.5％）、死者０人であった。

○　病因物質別発生状況の年次別推移では、ノロウイルス、アニサキスとカンピロバクターの事件数が高い値で推移している。

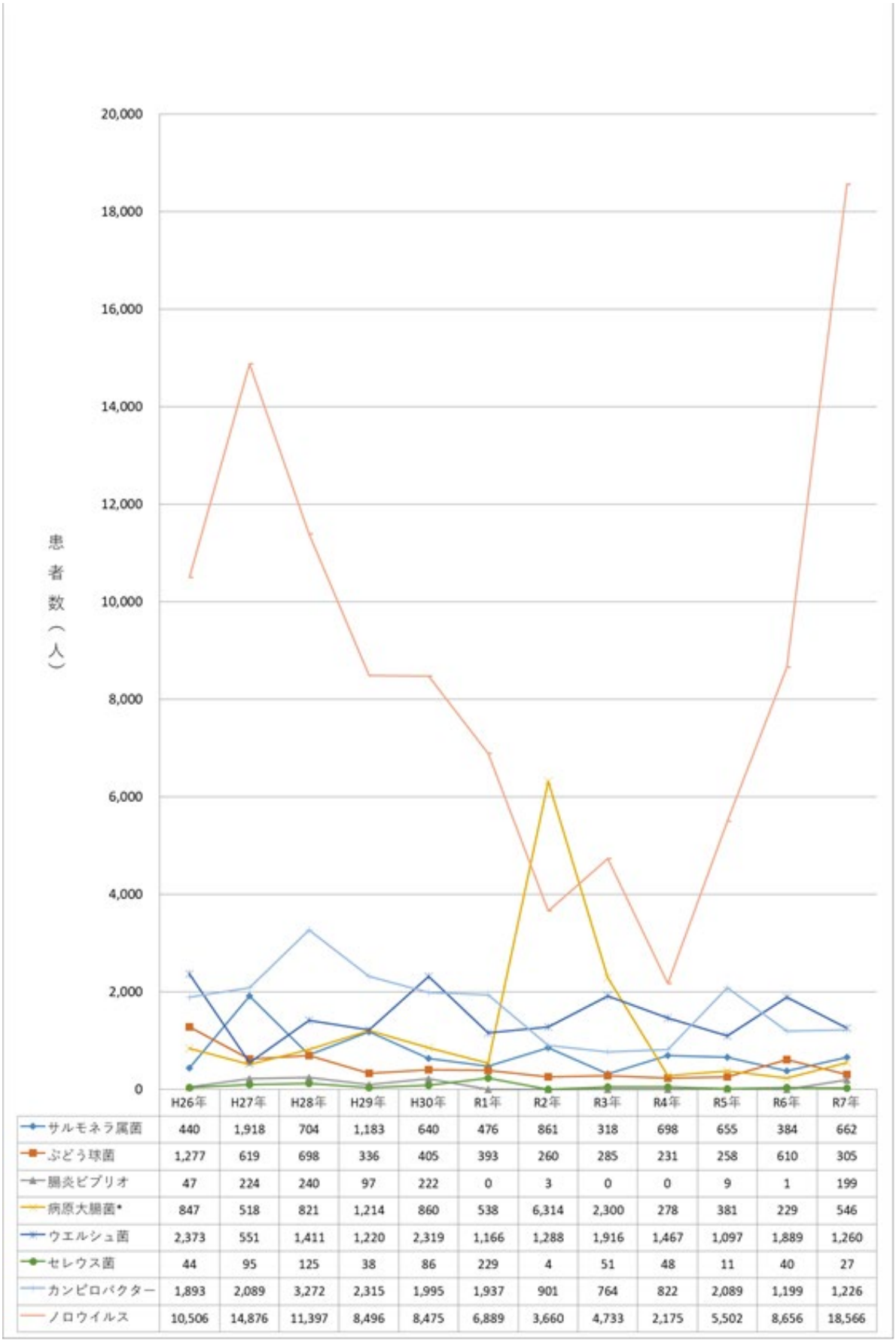
○　寄生虫（クドア、サルコシスティス、アニサキス、その他の寄生虫）については平成 25 年 1 月から食中毒事件票に病因物質種別として追加されている。令和７年の発生状況は、クドアが 22 件 207 人、アニサキスが 280 件 283 人、サルコシスティスが０件となっている。



	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
サルモネラ属菌	35	24	31	35	18	21	33	8	22	25	21	25
ぶどう球菌	26	33	36	22	26	23	21	18	15	20	21	15
腸炎ビブリオ	6	3	12	7	22	0	1	0	0	2	1	2
病原大腸菌*	28	23	20	28	40	27	11	14	10	22	21	14
ウエルシュ菌	25	21	31	27	32	22	23	30	22	28	43	33
セレウス菌	6	6	9	5	8	6	1	5	3	2	2	5
カンピロバクター	306	318	339	320	319	286	182	154	185	211	208	220
ノロウイルス	293	481	354	214	256	212	99	72	63	163	276	462

＊病原大腸菌に腸管出血性大腸菌を含む。

図３：主な病因物質別にみた事件数推移



	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
サルモネラ属菌	440	1,918	704	1,183	640	476	861	318	698	655	384	662
ぶどう球菌	1,277	619	698	336	405	393	260	285	231	258	610	305
腸炎ビブリオ	47	224	240	97	222	0	3	0	0	9	1	199
病原大腸菌*	847	518	821	1,214	860	538	6,314	2,300	278	381	229	546
ウエルシュ菌	2,373	551	1,411	1,220	2,319	1,166	1,288	1,916	1,467	1,097	1,889	1,260
セレウス菌	44	95	125	38	86	229	4	51	48	11	40	27
カンピロバクター	1,893	2,089	3,272	2,315	1,995	1,937	901	764	822	2,089	1,199	1,226
ノロウイルス	10,506	14,876	11,397	8,496	8,475	6,889	3,660	4,733	2,175	5,502	8,656	18,566

＊病原大腸菌に腸管出血性大腸菌を含む。

図４：主な病因物質別にみた患者数推移

４．原因食品・施設別発生状況

○　原因食品・食事の判明したものは、事件数 1,003 件(85.6%）、患者数 24,083 人（97.4%）であった。

○　原因食品別の事件数を見ると、魚介類（237 件、20.2%）、野菜及び野菜加工品（43 件、3.7%）、複合調理食品（26 件、2.2%）の順で多かった（「その他」を除く。以下この項において同じ。）。また、原因食品別の患者数は、魚介類（1,405 人、5.7%）、複合調理食品（954 人、3.9%）、野菜及び野菜加工品（529 人、2.1%）の順で多かった。

○　そのうち、患者数２人以上の事例における原因食品別の事件数見ると、魚介類（72 件、8.6%）、野菜及びその加工品（26 件、3.1%）、複合調理食品（25 件、3.0%）の順で多かった。また、患者数２人以上事例における原因食品別の患者数は、魚介類（1,240 人、5.1%）、複合調理食品（953 人、3.9%）、野菜及びその加工品（512 人、2.1%）の順で多かった。

○　原因施設の判明したものは、事件数 985 件(84.0%)、患者数 24,024 人(97.2%)であった。

○　原因施設別の事件数を見ると、飲食店(658 件、56.1%)、家庭（85 件、7.3%）、事業場（51 件、4.4%）の順で多かった。また、原因施設別の患者数は、飲食店（11,724 人、47.4%）、仕出屋（6,146 人、24.9%）、旅館（1,922 人、7.8%）の順で多かった。

○　そのうち、患者数２人以上の事例における原因施設別の事件数を見ると、飲食店（589 件、70.0%）、事業場（51 件、6.1%）、旅館（47 件、5.6%）の順で多かった。また患者数２人以上の事例における原因施設別の患者数を見ると、飲食店（11,655 人、47.8%）、仕出屋（6,146 人、25.2%）、旅館（1,919 人、7.9%）の順で多かった。

５．その他

令和７年食中毒発生状況の詳細等については、厚生労働省健康・生活衛生局ホームページ「食中毒に関する情報」（https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/shokuhin/syokuchu/04.html）で公開している。